

平成26年4月

第 2 号

京都教育大学
附属京都小中学校
東櫻同窓会（仮称）



〒603-8163

京都市北区小山
南大野町1番地

TEL

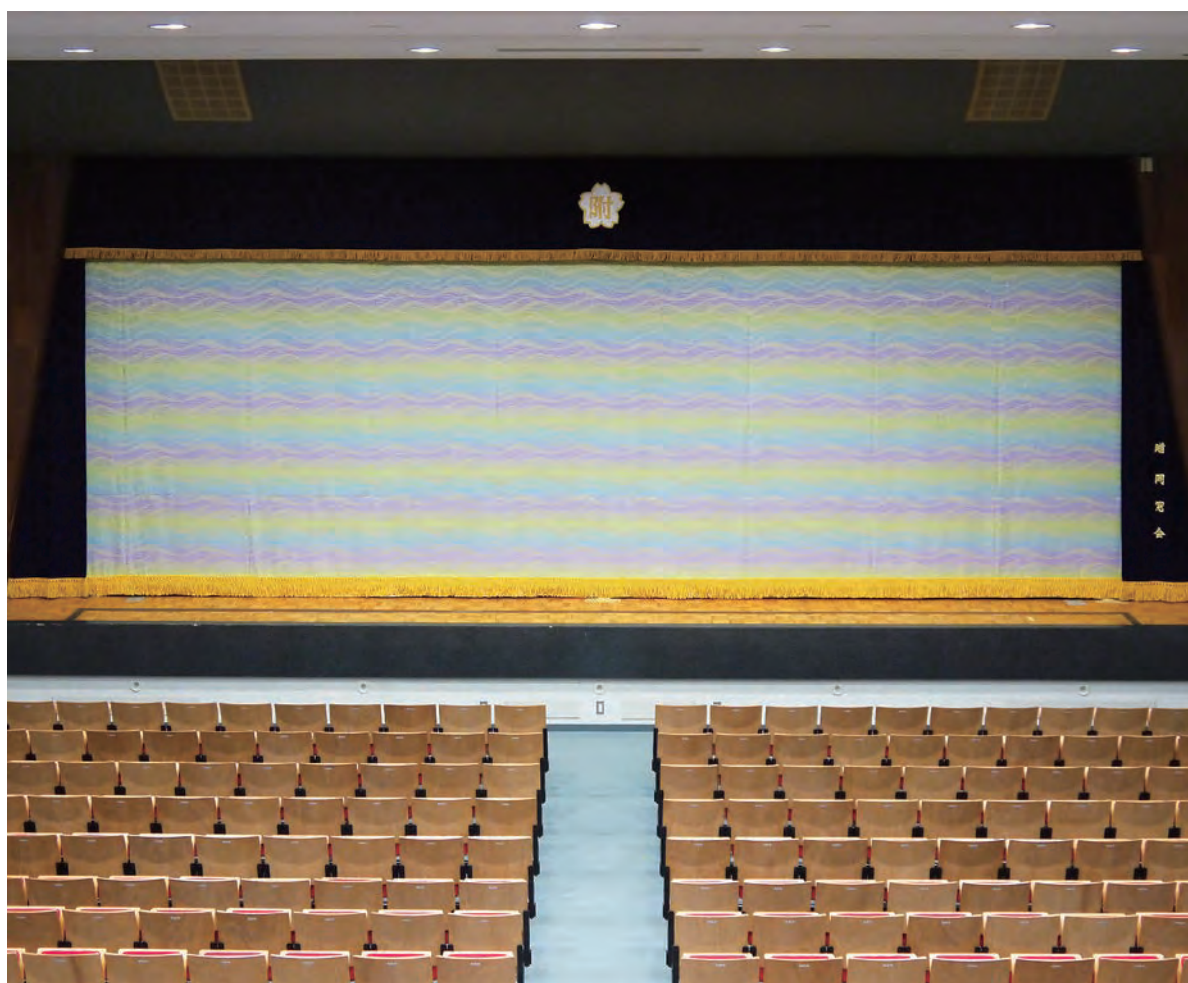
(075)431-7131

発行人 堀場 厚会長

題 字 岡田直樹学校長

印刷 中西印刷

—「同窓生のつどい」開催のお知らせ—



東エリア 講堂

東櫻同窓会（仮称）ホームページアドレス <http://www.touou-dousoukai.jp/>



ご挨拶

同窓会会長 堀場 厚

東櫻同窓会（仮称）の会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、私は先日世界スカウト財団主催の晩餐会に招かれスウェーデン国王陛下に謁見する大変光栄な機会をいただきました。国王陛下は世界スカウト財団の名誉総裁としても活躍しておられますが、ご公務でお忙しい中においても合間をぬって欧米やアジア、アフリカ各地を行き来され、スカウト活動の活性化に尽力しておられるそうです。国王陛下という立場のお方でもご公務と両立して社会奉仕に励まれる姿勢に感銘を受けました。

晩餐会においてはリーダーシップの養成が話題に上がりましたが、デンマークやスウェーデンでは、一〇〜一五%の子どもがスカウト活動に参加しており、成人後に社会で活躍する経営者、教育者の多くがスカウト活動の経験者であり

その割合は、七〇〜八〇%にも上るそうです。子ども頃から勉学に励み知識を習得することも大事ですが、スカウト活動を通してリーダーとしての自覚やチームワークそして、年長者を敬い後輩の面倒を見るという自然な規律を学ぶことが社会で通じる素晴らしい経験になっており、いかに大切なことか改めて認識することができました。

同窓会の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。平素より本校教育活動にご理解とご支援を賜りまして厚く御礼申し上げます。

本校は、平成二二年より小中一貫学校として新たにスタートし、伝統を大切にしながら学習活動や学校行事をしております。私は四年前に校長として着任させていただきましたが、この三月をもって退任いたしました。この四年間はあつという間でございました。



ご挨拶

前学校長 谷口 淳一

歌の大合唱で、見事に気持ちを一つにして隊をなして泳ぎ切りました。海辺では他校の生徒たちが楽しんでおられるのと対照的に、波を顔に受けながらも泳ぐ生徒達を頼もしく思い感動しました。

数多くの学校行事がありますが、いろいろな体験を通じて自信をつけ、人との繋がりがや自らの役割を意識していくことが成長に繋がっていくものと考えております。それは必ず将来大きな力になるものと思えます。

附属小中学校ならではの特色を生かして、これからの多難な時代において生き抜いていく土台づくりは着々と固められております。今後、より教職員が力を合わせ、二一世紀をリードする生徒の育成に尽力してまいります。

尚一層のご支援とご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。

附屬京都小中学校からグローバル社会で活躍し、未来を担う素晴らしいリーダーが多数輩出されることを心から願っています。

日本海の浜詰での小遠泳、大遠泳は大変厳しい遠泳ですが、生徒たちは「えんやこら」の掛け声や「へいあんの、へいあんの」の校



ご挨拶

新学校長 岡田 直樹

東櫻同窓会（仮称）会員の皆様方におかれましては、益々ご清祥のことと存じ上げます。また、平素より本校教育活動にご理解とご支援を賜りまして厚く御礼申し上げます。

この度、平成二六年四月より、前任の谷口淳一先生の後を受けまして本校校長として赴任致しました。伝統ある附属京都小中学校の校長という重責に身の引き締まる思いですが、本校の更なる発展の為に微力ではありますが、少しでもお役に立てればと考えております。大学では美術領域専攻書道分野の教員として書道、特に仮名の研究に携わってまいりました。書においては、意識的に伝統につながるうとして先人の書を学び作品が作られてきました。先人が発明工夫した優れた表現や技法の精華をその書に求め、それらを消化吸収し、自らの作品に盛り込むことに

より、今までにない新しい書として人の心を打つ作品が制作されてきました。

本校の教育に於いても書と同様の事が言えるのではないかと考えています。附属京都小学校・中学校として培われてきた優れた実績が、書でいう先人の優れた書にあり、それらを基調としつつも新しい試み、例えば小中一貫教育の導入は、書でいえば人の心を打つ新しい作品にあたると言えます。新しい時代に即した教育への取り組みは、本校の教育が高く評価されている所以と思えてなりません。国立大学法人化以降、附属校としても対処すべき課題は多々ありますが、本校の良き伝統を継承すべく大学と附属の密接な連携、教職員の協力的な強化とともに、同窓会会員の皆様のご協力、ご支援をお願い申し上げます。



ご挨拶

同窓会副会長 大倉 治彦

東櫻同窓会（仮称）の会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は、同窓会の活動と母校の教育活動に、暖かいご支援ご協力を賜り誠に有難うございます。早いもので、小中が統合して新しい同窓会が発足してから、今年で三年になります。その間、役員の皆様には名簿の整理や会報の発行などで、大変お世話になりました。また、今年六月に「同窓生のつどい」の開催を控えており、その準備に向けて奔走していただくことになるとは思いますが、宜しくお願ひしたいと思います。

今年には附属高校の設立五〇周年にあたり、秋には記念行事が予定されています。同窓生全員が附属高校に進学した訳ではありませんが、消息情報の提供など、できることがあれば協力していきたいと思ひます。



ご挨拶

同窓会副会長 鈴木 順也

桜が咲くと、私は小学校に入学した時のことを思い出します。学校に通うことの意味を十分に理解できない年頃でしたが、担任の先生や友人との出会いに、言葉では表現できない高揚感を覚えしました。学年が上がるにつれ、生活のウエイトが家庭から学校に移りました。家族よりも友人との付き合いで話すトピックスが増えるなど、社会的な行動範囲の広がりを自覚するようになりました。

さて、現在。私たちには（附属には通わなかったが）高校生と中学生の息子がおり、彼らの成長の過程を自らのそれと重ねて評価することがあります。親の立場では不満に感じる彼らの言動でも、その年代に自分たちがどうだったかを省みると、何となく許容できます。人生は、自らが設定した目標に達成するための努力の過程のように思われます。その中で経験する失敗や挫折は、成功よりも記憶に残ります。学校は、努力の過程で知的な気づきを与えていただく場ではないかと、今になって思ひます。

「同窓生のつどい」の開催に向けて

実行委員長 細川 浩三

六月二十八日(土)午後四時から京都ホテルオークラ・暁雲の間にて「同窓生のつどい」が開催されます。今回の実行委員は小学校昭和五九〜六一年卒(中学校三九〜四一期)の三学年が務めております。

私は、同窓会委員でありながら卒業してから二〇年以上の間、同窓会を開催したことがありませんでした。どんな風に声をあげると良いのか?みんなは集まりたいと思っているのか?などと案案していたところに、今回、つどいの実行委員の役目が回ってきた次第です。

いきなりの大役でとても驚きましたし、自分の学年の同窓会もしたことがないのに、小中学校の卒業生全員を対象にした「同窓生のつどい」のお世話役が務まるのか、大変不安な気持ちになりました。

しかし、前回平成二三年に開催された「同窓生のつどい」に同級生

と初めて出席し、多くの先輩方にて「幹事学年になったことがきつかけで、自分たちの学年も集まるようになったよ」と教えていただきました。このことで、素直にがんばろうと思うようになりました。

そして、今回の「同窓生のつどい」を開催する前に、同期の同窓会を開いて、少しでも協力してくれる人を見つけたいと考え、平成二四年一二月に小学校昭和五九年卒の同窓会を催しました。その時、たくさんの友人から、「同窓会楽しかったよ」「みんなと集まれて嬉しかったよ。ありがとう。」「今回はどうしても都合がつかなかったので、次は必ず行きますよ」という声がありました。みんなも集まりたいと思っていたことがわかり、ホッとすると同時に、それぞれ忙しい中でこの場に集まってくれているということが、本当にうれしくて、感無量の思いでした。「同窓生のつどい」は、同級生

だけではなく、お世話になった先生方や諸先輩方、後輩たちと再会を喜び、部活や委員会などで共に活動した仲間達と様々な思い出を語りあえる場でもあります。皆様ご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせのうえ、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

今回「同窓生のつどい」の目玉として、中学校四一期生の古川展生くんにてチェロの演奏をお願いしています。古川くんは、東京都交響楽団をはじめ国内多数のオーケストラ、著名指揮者と共演を重ねるほか、ポップス、ジャズ、タンゴなど他ジャンルのアーティストとのコラボレーションやライブハウスでのコンサートも積極的に行うなど、クラシックのみならず、形態にとらわれない幅広いフィールドで目覚ましい活動が続け、映画「おくりびと」のテーマ曲のソロ演奏を担当するなど、人気、実力ともに各方面より注目を集めているチェリストです。(古川展生オフィシャルサイトより抜粋)

同じ卒業生が多岐にわたり活躍されていることを知り、本当に誇らしく思います。古川くんの演奏

をぜひ聴きにきてください!

古川くんのすばらしい演奏だけではなく、おいしいお料理やお飲み物、楽しいイベントもさまざまをご用意しております。また、今回の「同窓生のつどい」も土曜日に開催いたします。ご遠方の方々、同窓会委員の方々を中心にお友達をお誘いいただき、大勢の皆様のご参加をお待ちしております。小学校昭和六二年卒、六三年卒、平成元年卒の次期幹事学年の皆様もご参加いただき、附属京都小中学校の団結力を感じてほしいと思っております。

最後になりましたが、「同窓生のつどい」を成功させるべく、ここまで歩んでこられましたのは、理事の方々に助けていただいたおかげに他なりません。この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございます。ございました。

では六月二十八日(土)京都ホテルオークラ暁雲の間で皆様にお会いできることを願って、ご挨拶とさせていただきます。



九年間のつながり

中高等部副校長

橋本 雅子

同窓生の皆様方には、平素よりご支援とご協力を賜り感謝申し上げます。また、京都小中学校は、平成二二年度より小中一貫校として正式にスタートしましたが、それに伴い同窓会も統合に向けご尽力を賜りましたこと、改めてお礼申し上げます。

さて、今回は、京都小中学校の新たな行事についてご紹介致します。

まず、年度当初に一年生から九年生までが集う全校対面式があります。二年生から八年生までが体育館に集合すると、九年生と一年生が手をつなぎ入場してきます。一年生と対面した九年生からは、「小さい」「かわいい」という声が上がります。すっかり頼られた九年生は、澁刺とした態度で親が子供に接するように笑顔で対応します。その姿は、教室の授業では見られない輝いた凛々しい姿なので

す。対面式の九年生挨拶では、「初等・中等部の皆さんは、高等部の人のすばらしさを身近に感じ、目標にしてください。高等部の皆さんは、自分の幼い頃のことを思い出し、下級生に優しさをもって接し、見本となる行動を取ってください。」とつながりを意識した立派な挨拶をします。この全校生徒の微笑ましい姿と一体感のある学校の姿を見て、小中一貫校で良かったと実感します。



これまで私たちは、下級生にとって上級生の素晴らしい姿を見せることで、下級生がより高い目標を設定し成長してくれると思っていました。しかし、今は、上級生が下級生、特に一・二年生と接することで「思いやり」や「優しさ」が自然と育まれ、上級生にとって掛け替えのない経験をしている

のどと感じています。

もう一つ、行事を紹介します。スポーツフェスティバル「紫翔祭」です。本校の「紫翔祭」は、京都小中学校で見られない取り組みが沢山あります。一年生から九年生までが縦割りで赤シャツ、青シャツ、白シャツを着て三色対抗で競い合います。各色の応援団長は、一年生から九年生までを統率します。伝統的に受け継がれている自主・自律の精神を発揮する舞台です。応援団長のリーダーシップで各色が一体となって応援合戦が繰り広げられます。また、この行事でも異学年の交流がたくさん見られます。オープニングは、二年生のとてもかわいいダンスです。全校生徒が注目し、大きな拍手で迎えます。異学年交流の特徴的なレースには、一年生と九年生が腹巻きにくるまり一緒に走る「腹巻きリレー」や八年生の騎馬の上で四年生が乗る「四・八騎馬戦」、五年・六年・七年による「中等部綱引き」など多彩な競技があります。また、六年生の「組み立て体操」や八・九年生の「よさこいそうらん」等の素晴らしい演技



発表も全学年で見ても感激します。最後に優勝旗は、九年の応援団長と一年生に授与します。今年の体育委員長の閉会の挨拶では、自分たちが五年生の時から始まった小中一貫の取り組みが九年になってその素晴らしさを感じる事ができたことと涙ながらに話してくれました。

私たちの京都小中学校は、先輩方が築かれた伝統や行事を残しつつ、新たな一歩を踏み出しています。どうか今後とも暖かい目で見守ってください。

教育の原点に

立ち返る

初等部前副校長

戸田 和樹

近年、教育に関わる世情は変容

がけたたましい。次から次へと新しい観点がだされてくる。教育現場は、それを理解し実践するに慌ただしく、ようやく落ち着いたらかと思えばすでに次の観点がだされているという有様だ。世界の経済事情や国際化の荒波を受け、やれグローバル化だ、思考力・判断力・表現力の育成だと尻を叩かれ、研究を推進しているが、ともすると教育の足下を掬われかねない現実が存在しているのも間違いない。年配の先生方が退職され、教育現場は若い先生方ばかりになっていて、教師の基礎基本（これは学校教育力で若手に伝えられてきた分野だが）さえも疎かになりがちになっている。前に進むことばかりが目が行って、後ろを振り向く余裕もない。

しかし、教育でもっとも大切に

されなければならぬことは普遍であろう。それは、目の前の子どもたちに寄り添うという、いわばありきたりな言葉で言い表されることだ。

私の若い時代、Y君という一年生の男の子を担当したときの話である。

Y君はうちの学級では一番書けない子だったろうか。ひらがなを書くとということに抵抗をもっていた。それでも、ひととき日記を書きたいといつて、私の所にノートをもってきたことがあった。それは、全く読めない日記だった。私は細心の注意を払ってY君に言った。

「Y君、ここちよつとわからへんねんけど、お話ししてくれる。」
その日から、Y君はノートをもつてこなくなつた。私は、日記を書くという営みの中に、みんなと同じことをしているという喜びがあることに気づかされた。

そのY君が、夏休み前の絵日記の指導で次のような作文を書いてくれた。

「きのう、ぼくは、ぎおんまつりにいきました……。」
私はホッとするとともに、書け

なくしてしまった子どもが書いてくれたことで、余計に子どもを愛おしく思ったことだった。ところが、夏休みに入ってY君の家に家庭訪問に出かけ、お母さんの話を聞いてびっくりした。

「あの絵日記は、うそを書いてるんです。ぎおんまつりなんかにはつれていっていません。なんでもそなんか書いたのとおこりたくなりました。」

私は、察するところがあつて口を挟みたくなつたが、出てくる言葉を飲み込んだ。

「でもね、読んでいるうちに、あの子どもぎおんまつりに行きたかつたんちがうやろかと思えてきましたね、行きたいって書くとこるを走りましたって書いたんだと思うんですよ。それで、あの子どもを呼んで、よう書いたな、今度ぎおんまつりにつれていってあげようって、ほめてやったんですよ。」
私はこのとき、「しました」と子どもが表現する言葉の読みを、初めて教えられたような気がした。そして、お母さんのあたたかさや心動かされたのだった。こうした子どもに寄り添うあたたかい心こそ子どもたちを励ましていく

のだとつくづく教えられたような気がした。

こうした、大人の姿が次の世代にあたたかさを伝え、そのあたたかさがよりよい文化や学びをつくっていくものだと私は思う。そういう意味では、同窓会諸先輩方の本校や本校生徒に対するあたたかいお心が、現在の本校の支えになっていると思われて仕方がない。また本校が所有している数ある美術品も、諸先輩方のあたたかさがこめられているものだと思う。

今年度、本校所有の三谷十糸子画伯の「夏」という作品が、堂本印象美術館で催された「女性が描いた昭和のエレガンス―梶原緋佐子・広田多津・三谷十糸子・北沢映月―」展に展示された。

こうした思いが、附属校ばかりではなく広く世の中にあたたかさの輪を広げ貢献していくことは、望まれてしかるべきことと考えている。



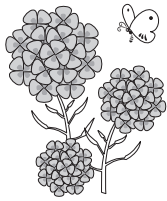
年次だより

■小昭11年卒

私達は満九〇歳となり、今迄毎年一月一日寿一会として集まって居りましたが、人数も減り、昨年一月一日には男性三人、女性三人が集まり、最終会と致しました。
(田村淳夫)

■小昭14年卒

私が六年生の時、今の校舎が建てられたのを覚えて居ります。旧校舎の正面に金木犀があつたのを思い出しました。私の祖父の弟新畑六郎(?)が校医だったと思いますが最近はお友達が消えて、附属時代の方々とは神戸とか他に遠方なので、あまり会っていません。
(福井叔子)



■小昭18年卒

全員が八〇歳を越えた私達の紫桜会も、恐らく今回で最後ではないかと云いながら一八名が参加。楽しい一時を過ごしました。受付では一瞬誰か思い出せない人もありましたが、話をしている中に年のことなどすっかり忘れてしまっていました。京都近辺・静岡・名古屋・横浜・千葉・岡山からの出席があり、本当に楽しい集まりでした。
(駕渕紹子)

■小昭19年卒

平成二五年一月一日に、同期会を恒例の京都駅前タワーホテルで開催しました。
ただ、流石に八二歳を過ぎると、ご本人、ご家族の方々の病氣、介護なども多く、出席率が急に減少し、二五名になってしまいました。
非常に残念ではありますが、今年で同期会の開催は中止とし、今後は各クラス毎の開催に変更いたしました。
(武居三郎)



■小昭21年卒・中1期卒

平成二三年九月三〇日に京都タワーホテルで開催。北海道からの一名と関東地区からの五名を含め、合計二七名が参加。卒業後六五年経ち、全員喜寿を超えたにも拘わらず、昔に戻って楽しいひと時を過ごした。同期生の西千代子元教授の「老化を遅らせる食事」の講話を聴き、武田昭龍和尚の発声で「(元気で集まれて)有難う!」と唱和して乾杯。その後全員が近況や小学生時代の話などを披露し合って約七〇年を振り返った。パーラウンジに移動し、二二名で賑やかな談笑を交わし、来年の再会を約束しつつ散会した。当日の写真とメモ集(瀧野喜八郎君作、カラー四頁)を後日、出席者はもちろん、欠席者にも送付した。
(荒木長男)

※ 荒木様の原稿は、旧郵送先に届いていたことが前号発行後に発覚致しましたため、ご本人の了解を得て今号に掲載させていただきました。



■ 小昭21年卒・中1期卒

「京師附小第一六回同窓会（傘寿記念）」

第二次世界大戦開戦一年前に入学し、終戦の翌年三月卒業、小学校時代を第二次大戦と共に過ごしました。学問にも励みましたが、畑作は勿論、山野草や木実を採りに行ったり、防空壕へ飛び込んだり、疎開で友達と一時別れたり、変化の大きい世代でも有りました。其れから約七〇年、今年傘寿を迎えました。

四〇五年前からは、同窓会を毎

年する様になりましたが、さすが同窓生、顔を見れば八〇歳の顔では無く小学校の時の言葉と顔に成ります。参加した人は、懐かしい昔話の中に、今後の抱負や楽しい計画も伺えてまだまだ元気そうな喜びを感じました。昨年一〇月八日「ストラダ」にて、二五名で楽しい傘寿を祝えた事を、心から幸せに思っております。（松澤幸男）



■ 小昭23年卒・中3期卒

洛三会総会が平成二四年一〇月一二日（金）、鴨川ほとりのRKR京都「くに荘」で開催されました。出席者は三一名、在籍の三分の一が顔を見せ喜寿の喜びを分かち合いました。洛三会は昭和一六年一二月の真珠湾攻撃の翌春に附属小学校へ入学した学年で、本年度七〇年を迎えます。厳しい戦争下で空襲や疎開を共に生き抜いた仲間です。（佐谷克己）



■ 小昭24年卒・中4期卒

平成二五年一月、四回目の宿泊旅行を二八名の参加を得て実施。京都からの貸切バスに豊橋で関東勢が合流。豊川稲荷に参拝後、伊良湖岬へ。ホテルはビューと銘打つだけあって、神島を望む景観は素晴らしい。入浴後の懇親会は、お酒も入り、思い出話で大盛り上がり。台風の合間を縫った旅行だったが、フェリーも揺れず、みかん狩り・リニア記念館見学と予定通り進行、名



古屋駅で関東勢を見送り、一路京都へ向かった。
(追田恒夫)

■ 小昭27年卒・中7期卒

我々は三年ごとに同窓会をおこない遠方からの参加者も多数あり卒業生の「輪」を広げています。懐かしい顔に、おのずとヤングの気持ちになるのは、同窓会のよさでしょう。できるだけ長く交流がもてることを願っています。

中学を卒業して六〇年目になる来年(平成二十七年)に、京都での開催が予定されています。

(小林大二)



■ 小昭28年卒・中8期卒

平成二十四年一〇月一四日(日)午後六時タワーホテルに於いて四一名出席して始まった。挨拶の後食事をしながら、全員一言ずつ発言してもらい、色々な話が出て盛り上がった。中締の後、二次会も盛り上り一〇時頃、明日のエクスカージョンを楽しみに散会。

明るる一五日(月)天気も良く一九名が出席、九時半に京阪バスをチャーターして宇治方面へ向う。先ず醍醐三宝院と五重の塔を見て、宇治ミュージアムへ向うが、定休日で横を通り宇治上神社(国宝・世界遺産)へお参り、宇治神社から橋を渡り、中の島から、平等院(改装中)で部品がはずされ陳列してあり、目の前で見える事が出来た。昼を少し廻ったが、次回を楽しみにここで解散した。

次回の案内が出ており来年(二六年)四月一三日(日)に一三時〜一五時、二次会場でホテルオークラに於いて行われます。多数出席お願いします。

(加藤二郎)

■ 小昭31年卒・中11期卒

比叡山に対峙するかのよう、京都の北東方面に一階を正面玄関、二階、三階を広い踊り場、そして建物の頂上には重厚な屋根。昭和二五年四月、漸く背丈が1mを超えた一年生には小学校の校舍は随分威圧感の有る建物でした。それから六〇余年を経、玄関には穏やかな彫像が置かれ、何よりも本年一月には(少数の亡くなられた方、連絡が着かない方もいらつしゃいますが)満年齢で古稀の祝いを交わし合った私共にはその威

圧感は無くなり、懐かしい建物として記憶されています。小学校、中学校の同窓会が合併する機運に押され、中学校卒業の二期生(イレブン会)で時に開催されていた学年同窓会に、本年一月開催時から小学校のみに在籍された方もご案内し、半世紀を超えた友情を復活する事が出来ました。イレブン会では歴史をお酒を楽しむ会、山歩きを楽しむ会、菜園を楽しむ集まり等、仲間の繋がりは益々深まっています。

(井家上峻)

■ 小昭32年卒・中12期卒

二年毎に同期会を各組の幹事回り持で開いており、直近では一昨年秋季に京都で恩師をお迎えし、住所判明者一二六人中五六人が集まりました。一次会だけでは収まらず、大勢が二次会に繰り出し、五時間近く騒いでやっとお開きになる盛会でした。今年もC組の幹事で開催される予定です。関東では右記同期会の間の年に開催を慣行にしており、昨年暮に東京の水戸黄門ゆかりの小石川後楽園の涵徳亭で関東在住者同期会が開かれました。師走ということもあり在住者三〇人中七人のやや寂しい同期会でしたが、いつものように近況の紹介から始まり、懐かしい半世紀以上昔の小中学校時代の思い出話で盛り上がりました。会食後、紅葉が美しい日本庭園を散策して散会しました。その他同期生の日本舞踊の発表会に招かれ、その後で歓談したり、少人数で会合を持つたりして交流を深めている人々もいます。

(鶴木孝典・石川 卓)

■小昭34年卒・中14期卒

集楽旅行 東京だよ！

我々一四期卒業生は還暦同窓会を平成一九年に行い、パートⅡつま恋ツアーを翌年、パートⅢ六五歳記念を平成二四年に京都ホテルで行い、今回は東京の丸ビル三五階の会場に三〇名の同窓生と小林レイ先生が集い、美しい首都の夜景に酔いながら楽しい一時を過ぎました。翌日は東京幹事の粋な計らいで江戸情緒溢る隅田川の舟遊、浅草寺の仲見世、昼には名代の『駒形どぜう』で舌鼓を打ち、池波正太郎の鬼平犯科帳の如く、暖簾をくぐればそこは江戸。どじょう鍋はミシユラン三☆を凌ぐ美味。尤も、仏人には判らん味でっせ、この味は江戸庶民の味、大切に守らにゃいかんぜよ！硬水で出した出汁は京の軟水の味とは違うもんどすえ。江戸の下町恐るべし、ええもん残ってるで。京都への帰路では、舌に残る江戸の味と楽しかった友との語らいを思い、次の古希記念同窓会を頭に描きつつ家路に着きました。(三宅利幸)

■小昭39年卒・中19期卒

二〇一三年三月三〇日、京都ブライトンホテルに於いて中学校一九期同窓会を開きました。

恩師、江坂先生・西先生・藤本先生にもお越しいただき、楽しいひと時を過ごすことができました。二〇一四年三月九日には、小学校昭和三九年卒の五〇周年記念同窓会も予定しています。

みなさまや先生方に再会できる日を楽しみにしています。

(榊井敬弘)



■小昭40年卒・中20期卒

二〇一三年三月二三日に還暦を祝う同窓会が開かれました。中学卒業以来の顔もありましたが、直ぐに童心に戻り気分は十五歳でした。我々より元気な荒井先生、山川先生、西先生がご出席下さり、入学時は隣の木造校舎に附属高校の一期生がおられた事、翌年には制服がああ茶色のブレザーになった事等、昔話に花が咲きました。

(三柴 強)



2013年3月23日 京都教育大学附属京都中学校 20期同窓会 於京都ブライトンホテル

■小昭41年卒・中21期卒

小学校の我々の学年は他の学年と違いクラスが「い組」と「ろ組」二クラスの学年でした。噂では一クラス分が付属桃山へ廻されたと言われていました。そのおかげで九〇人全員の顔をすぐ覚えることができましたと記憶しています。

中学の学年も丁度制服が制定された最初の入学生であったのを覚えていています。家庭科の多羅先生がデザインされた茶色のブレザーとグレーのパンツ、スカート今も京都の街中で懐かしく拝見しております。

同期の集まりが久しく出来ていないのが残念です。(小笹純嗣)

■小昭47年卒・中27期卒

先日、久しぶりに同級生の大槻隆雄君から電話があり、一度学年で同窓会をしたいとの事。学年の名簿を中西理事にお願いして入手し、大槻君に送りました。しばらくして、又電話があり、「ちよつと先の話になるけど平成二七年のお正月に同窓会をしようと思う。」との事でした。それならまだ十分

時間があるので京都在住の同級生たちにも声をかけ、恩師の先生方にも来て頂けるような同窓会にしようということになり、大槻君が早速、会場を予約してくれました。詳細は、追って又、往復はがき等でお知らせしますが、日時は、平成二七年一月三日(土) 一二時三〇分から、場所は、京都市中京区河原町三条上る東側の京都ロイヤルホテル&スパ二階宴会場で開催を予定しております。

六月二八日のつどいと、来年一月の学年の同窓会、どちらの会も大勢の皆さんの参加をよろしくお願ひします。
(荻野晋也)

■ 小昭55年卒・中35期卒

平成二四年八月、五年ぶり第三回同窓会を八坂『長楽館』にて開催いたしました。太田、小寺、高橋、森ご夫妻緒先生方、同期四名の盛大な会となりました。

それぞれの近況を伝え合い、また新たな連絡先の交換など、久しぶりの再会に喜び合いました。

今回は、平成二九年の開催を予定しております。今回出席出来なかった方々、是非ご出席ください。

小、中学校で築いた『絆』をもう一度再確認してみませんか?
(筑摩 寿)



第3回 附属京都中学校35期同窓会 於長楽館 平成24年8月11日

■ 小昭59年卒・中39期卒

六月の「同窓生のつどい」に向けてエンジン全開、がんばっています。「つどい」の後に我が学年の同窓会も企画しています。以前の同窓会に来られなかった仲間も来てくれた仲間も「つどい」と同

窓会にぜひ参加してください！
特集記事の「学校・学校近郊の今昔」は私達が作ったものです。絶対に読んでね♪
(土田敬子)

■ 小昭60年卒・中40期卒

今年の六月に開催される小中同窓会に先立ち、三月末に同期の同窓会を開催する予定です。働き盛りの四一歳、なかなか集る事が出来ませんが、同窓会でより多くの同期生が集るように広く声掛けをおこなっていきたいと思います。

私どもの学年は、六月に向けて幹事学年として多くの同窓生と共に準備を進めていきたいと思います。
(若野豪宏)

■ 小昭61年卒・中41期卒

実行委員の担当学年となること
が決定した時から、二〇一四年六月の同窓会に大勢出席してもらおうべく、地道に活動してきました。幸いにも昨今は、SNSをはじめとする便利なツールが発達しているおかげで、二〇数年ぶりでも手軽に連絡がとれる時代となりました。今回は、昨年二月二十八日に集まりました。三年前から教えて

四、五回目の集まりになるでしょう。毎回二〇名ほどが集まりますが、そのたびに新しく参加してくれる同級生がいるので嬉しい限りです。

六月の東櫻同窓会(仮称)では、同級生の古川君がチェロの演奏をしてくれる予定なので、大勢が出席してくれることを願っています。
(朴 堯大)



■ 小昭63年卒・中43期卒

わが学年はここ数年、同窓会を行っておりません。

しかし同級生同士が集まることはあり、写真も昨年の七月に、同級生の一人が経営する店に集まったときのものです。

次回同窓会を開催するときには、このような会を統合する形で、できるだけ多くの人が集まるようにしたいと思っています。

(小倉健吾)



■ 小平8年卒・中51期卒

私たちの世代が紫明通りを毎日歩いていたあの頃から、一五年が経とうとしています。諸先輩方からすれば、まだまだ若輩者の私達も、ある人は家庭を築き、ある人は責任ある仕事を任されるような年齢になりつつあるのではないのでしょうか。忘れられないほど思い出の詰まった学舎にも、久しく足を運んでいない人がほとんどだと思います。年月が経ち、あの頃と随分変わっているのかもしれない。(私達の頃とは制服も変わっているんですよ。ご存知でしたか?)

卒業以来に顔を合わせていない皆とも、そんな話に花を咲かせる場を近々に設けたいと思います。案内が届いた際には、一人一つの思い出話を持ち寄って、ぜひ旧交を温めたいと思います。皆さん、誘いあわせてご参加ください。

(高阪将人)

■ 小平9年卒・中52期卒

卒業以来、同窓生と集う機会を設けられておらず同窓会委員としては心苦しい限りです。

さて個人的な話になりますが先日小・中学校時代を共に過ごした友人の結婚パーティーへ参列し久々に懐かしい面々と再会する機会がありました。当時の思い出を写真で振り返り思い出話に花を咲かせ楽しい時間を過ごしました。

卒業から時間は経っておりますが、各々が思い出を語る表情は当時と変わらず安心した次第です。

今は便利なもので、フェイスブックなどで互いの近況を知ることができる時代となりました。結婚された方、お子さんが生まれた方、海外で活躍されている方、当時は想像し得ない道を各々歩まれております。

卒業以来、歩んできた道は異なりますが、幼少期より交友のある友人達の活躍を聞いて嬉しく、また感慨深くもありました。

(久保田朋子)

■ 小平11年卒・中54期卒

皆様お久しぶりです。

SNSもせず、同窓生の皆様と縁遠い私が年次だよりを寄稿するのは大変僣越かと存じますが、どうかご容赦ください。

私は現在、福岡で妻と長女の三人で暮らしています。福岡は食べ物がおいしく、京都に似て適度な都会で大変住みやすいです。旅行に来るには何もないところなので注意が必要です。先日長女を見に同窓生が数名遠く福岡まで駆けつけてくれましたが、観光スポットがないと文句を垂れていました。ただ、夜の街中洲はしっかりエンジョイしたそうです。

さて、同窓だよりを見るにつけ、同窓会の一つや二つせねばならぬと頭をよぎるのですが、今現在開催の予定はございません。卒業何周年等々開催できればいいですね。誰か妙案はございませんか？ 妙案をいただければ開催のため尽力します。

(奥田将吏)

■小平17年卒・中60期卒

皆さんこんにちは。京中六〇期生の小谷です。私たちの学年は、二〇一三年の一月に成人式を迎えました。成人式の後に例の如く中学校の同窓会があり、久しぶりの再会に喜びました。全く昔と変わらない奴、ケバケバになった女の子、変な奴方をして終始面倒くさい奴(お酒のせいも多少あるが)いろんな奴がいました。中学の時分よりも個性が随分と多様化したように思え、種の繁栄にはポジティブな影響を持つだろうと思います。全員に共通するのは同窓生であるということ。そしてみんな年齢的にはもう一人前の大人。だからこれからは自分の言動にはしっかりと責任を持ち、まっとうな道を歩んでいかなければならない！と、言うつもりはありません。それぞれが自分の思うように生きて、また一〇年くらい経ったとき同窓会を開いて、また楽しくワイワイしたいのです。(小谷俊輔)

■小平21年卒・中64期卒

附属京都小中学校を卒業して既にもう二年が経とうとしている。三年間という長くも短い期間を過ごしたその場所を出て、新しく高校という場所に身を置いていた私であるが、今やもう、受験生と呼ばれる時期に入ろうとしている。ついこの間、中学を卒業したように思えるのにもう受験生とは。時間が過ぎるのはなんと早いのだろうか。さらにあと五年もすれば、自分はほぼ社会人になってしまおう、という事実はある意味恐怖である。高校生活もあと一年に突入するのを目前にして、そろそろ自分の将来について考え始めるべきなのだろうが、いまいちピンとこないというのも本音だ。とはいえ、現実から目をそらしていても何も見つからないだろう。とりあえずあと一年、何かしら自分の将来について、たとえ抽象的でも展望を抱けるように探ってみようと思ふ。(東谷萌絵)

◇学校・学校近郊の今昔

この数年間で附属小中学校では大きな変化がいくつもありました。前号で橋本先生(中・高等部副校長)の記事にもありましたとおり、小中一貫学校化に伴い、校舎の改修がいたるところで行われました。

時代のニーズに合わせて進化をし続ける我が母校ですが、ふと、「昔はどうだったんだろう?」という素朴な疑問がわき、調べてみることにしました。

東櫻だより編集委員である小学校昭和五九〜六一年卒業・中学校三九〜四一期生の私たちで、学校の倉庫や書籍から写真を探しました。現在と昔の母校とその近郊を写真で見比べると様々な発見があると思います。

さあ皆さん、タイムスリップしてみましよう。



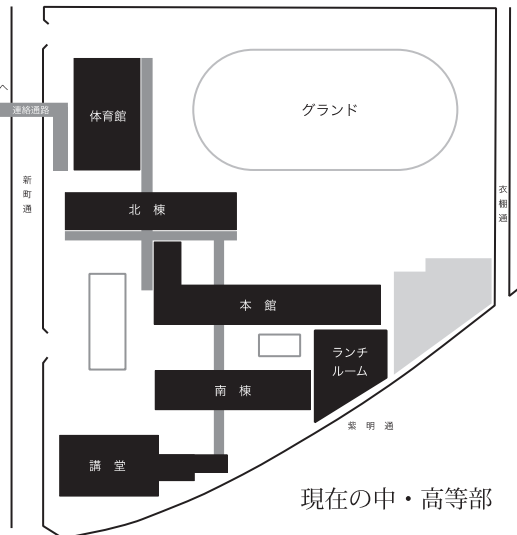
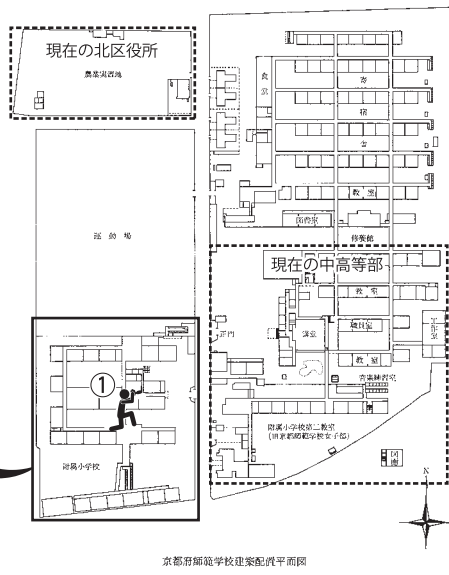
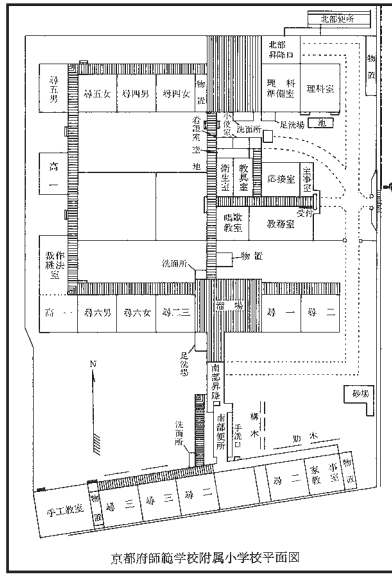
平成14年



昭和30年の附小

◇全景
〜空から〜

◆校舎の配置
～図面～





◇正門

明治34年～昭和13年 旧木造校舎校門



旧正面玄関（初等部）
車寄せがありましたでしたが、今は「おはようの像」と警備員さんが、登下校の生徒達を見守っています。

平成26年 初等部正門

昭和50年代 小学校正門



中高等部正門
平成二五年に改装しました。現在は警備員さんが常駐し生徒達を守っています。

平成26年 中高等部正門

◇学校近郊

◆北大路バスターミナル(烏丸車庫)



平成26年



昭和47年「京都写真館」淡交社刊より



昭和53年

◆北大路新町交差点
市電がなくなり三〇余年。
上履を売っていた靴屋さんももう
無くなっています。



平成26年

現在の北大路バスターミナル。地下鉄が
開通し、ショッピングセンターが
オープンし、バスの車庫は地下へと
なりました。市電の面影は皆無です
ね。

皆さん、いかがでしたか？昔を
思い出されましたか？
今回、母校の中を歩きましたが
驚きの連続で、色々楽しめまし
た。皆さんも近くへ来られた際
には、母校に寄られてはいかが
ですか。



平成26年



昭和57年

名簿委員会より

三年に二度、名簿の訂正作業を
行っております。少しでも多くの
住所不明を無くし、多くの同窓生
の皆様に「東櫻だより」を発送出
来ます様に努めております。

私共名簿委員だけではなく、各
学年理事の方々にもご協力をいた
だいておりますが、それでもなか
なか全てを調べることに限りがあ
り、住所不明の方が減らないとい
うのが現状です。

そこで、お一人お一人のご協
力もお願いしたい次第でござい
ます。

転居等でご住所が変更になられ
た際、ご結婚で改姓された際、お
手紙、ファックス、または、東櫻
同窓会(仮称)ホームページにて
必ず卒業された年度(小・中共)
をご記入の上ご連絡をいただきま
すようお願いいたします。

また、海外にご住所がある場合、
国内で連絡がとれるご住所がおあ
りであればお申し出ください。(海
外には送付できません)

京都教育大学附属京都小中学校 東櫻同窓会（仮称）会計報告

自 平成23年6月25日
至 平成26年3月31日

(金額単位円)

【収入の部】

小学校同窓会	残金	3,855,525
中学校同窓会	残金	128,731
名簿及び会費	収入	11,396,750
受取利息		3,816
合計		15,384,822

【支出の部】

前回(H23.6.25)総会経費	369,600
東櫻だより作成費	1,331,509
舞台幕寄贈費	918,750
委員会活動費(名簿整理費用含)	400,929
タイ国交流寄贈費	400,000
ホームページ運営費	315,000
卒業記念品	122,052
通信郵便費	97,800
事務用雑費	22,433
繰越金	11,406,749
合計	15,384,822

会計担当 北村光一郎 (小昭50年卒・中30期卒)

また、学年理事の方々にはお手数ですが、同窓会を開催される際には、皆様のご住所を改めて確認をしていただければと思います。

何分、小中統合で会員数も増え、お名前の重複や改姓、小学校のみで卒業された方々のチェック等々の作業をお一人ずつ作業で行っておりますので時間を要します。ご迷惑をおかけしていると思いますが、同窓会発展のためにも何卒ご理解とご協力を重ねてお願いいたします。

(筑摩 寿)

卒業生・恩師の表彰

◆平成二五年春

人見 明夫先生

端宝双光章

附属京都小学校に、昭和四七年四月から昭和五一年三月までご勤務。

◆平成二五年秋

上村 淳之氏 (小昭二二年卒)

文化功労者

(京都市立芸術大学名誉教授) 日本画・文化財保護の功績が高く評価されご受章。

恩師のご消息

ここ一二年の間に附属京都小中学校を支えてくださった先生方が、何人もお亡くなりになっています。心より、ご冥福をお祈り申し上げます。

岩切 榮先生

平成二五年二月ご逝去 八五歳
中学校に昭和二六年から保健体育科にてご勤務。(期間不明)

森本 安彦先生

平成二五年一月ご逝去 七九歳
小学校に昭和四一年四月から昭和四七年三月までご勤務。

塩見 幸男先生

平成二五年ご逝去 八二歳
小学校に昭和四五年四月から昭和四九年三月までご勤務。

合月 稔氏

平成二四年二月ご逝去 八九歳
小学校に昭和四〇年から定年まで用務員さんとしてご勤務。

通常総会開催告知

平成26年6月28日(土)午後3時より京都ホテルオークラ曲水の間に、京都教育大学附属京都小中学校東櫻同窓会(仮称)の通常総会を行います。

- 議案 1. 決算承認について(上に記載)
- 議案 2. 予算承認について(当日提示)
- 議案 3. 規約の改訂について

第1条 条文中「(仮称)」を削除する。

第18条 条文中「次期通常総会まで」を「次期通常総会後の理事会まで」と改める。

参考 現行条文

第1条 この団体は、「京都教育大学附属京都小中学校 東櫻同窓会(仮称)」と称し、京都教育大学附属京都小中学校の同窓会である。

第18条 本会の役員の任期は、次期通常総会までの3年間とし、重任は妨げない。

同窓会への寄付のお願い

常任理事会理事長 中西 秀彦

平素は当同窓会へのご協力まことにありがとうございます。

同窓会会費につきましては、小中同窓会の統合後、入学時の終身会費制度に移行いたしました。しかし、今後、学校の生徒定員減があると伺っており、この終身会費だけでは同窓会の活動がまかなえない事態となることが予想されます。また同窓会としての後輩達の活動の補助、卒業記念品の贈呈などを入学時におさめていただいた終身会費からのみ支出するというのは本末転倒にも思えます。

そこで同窓会の会員の皆様におかれましては、同窓会への寄付をお願いいたしたく存じます。前小学校東櫻同窓会の会費が三〇〇〇円でしたので、一口三〇〇〇円といたしますが、何口でも結構ですので、ご寄付いただけましたら幸いです。

寄付については、同封の振替用紙をご使用いただくか、インターネットバンキングで

ゆうちょ銀行 当座 一〇九店 0015200

宛お振り込みくださいますようお願い致します。

皆様のご理解とご協力をこの場をお借りして、心よりお願い申し上げます。

◆東部支部より

支部長（小昭二四年卒）

山脇 豊次

すでに皆様はご存知かと思いますが、昨年度より東部東桜同窓会は京都教育大学小中学校東桜同窓会（仮称）の東部支部として新たに発足しました。

東部東桜同窓会総会を平成二十四年九月八日に日本工業倶楽部にて開催し、その会で決議の後解散することが決定されました。この件に関しては、平成二四年四月同窓会常任理事会にて、東部支部となることはすでに了承されていきましたので、問題なく移行することができました。

東部東桜同窓会は多くの先輩方のご努力で創設された会でありましたが、近年は総会の参加者も減少傾向にあり、会の存続も厳しく、残念ですが解散は致し方なかったと思います。

そして昨年の一二月五日に幹事会（理事会）を開催し、今後の会の事業運営等が検討されました。その席で東部支部の役員選出が行われ、幹事会（理事会）の指名を

頂き支部長の重責をお受け致しました。今後平成二六年に予定されています東部支部の総会開催に向けて計画を立て準備を整えて、次回総会には多くの会員をお迎えできる様に、学年幹事（理事）の皆様方のご協力を頂き、更に同会の活性化に向けて努めていきたいと思っております。

編集後記

私たち幹事三学年が、幹事を引継ぎ早二年半が経ちました。大仕事の一つである「東櫻だより」の編集作業もほぼ完了し、残すは本年六月二八日の「東櫻同窓生のつどい」開催に向け、最後の大仕事を成功させられるよう準備にも熱がこもってまいりました。

ですがいま、私たちがとても頭を痛めている事があります。それは、前回つどい時に一部の心無い方が起こされた非常識な言動にあります。なぜあのような言動を取られたのか真意は不明ですが、出演者や他の出席者の迷惑になるような行為はご遠慮下さいますようお願い申し上げます。

（木村雅成）

古川展生

15th Anniversary

同窓会スペシャル
チェロコンサート

Robuo Furukawa



皆様こんにちは!そして本当に大変ご無沙汰しています。附属中学第41期卒業生の古川展生です。といっても誰だったっけと思われるかたも多いとは思いますが。

中学を卒業して、いったいどれだけの年月が流れた事でしょうか。ざっと数えても25年以上がたっているのですね。皆様それぞれがきっと充実した素晴らしい人生を歩んでいらっしゃる事と思います。

僕は今チェリストとしての道を歩んでいます。中学を卒業したあと、東京の音楽学校にすすみ、大学を卒業したあとはハンガリーのブダペストに留学し、25歳の時に帰国して東京都交響楽団というオーケストラに入団しました。以来、オーケストラの活動はもちろん、ソロや、室内楽、違うジャンルの音楽とのコラボレーションなど、さまざまな活動をさせていただいております。

この度は、同窓会という特別な会で演奏させていただけるということで今からとても楽しみにしています。

私事ではございますが、今年はCDデビューから15周年という節目の年でもあり、春と秋に一枚ずつ新しいアルバムを出させていただきます。とくに、この冬12月14日には京都でも、そのアルバム発売記念として、チェリストにとっては旧約聖書とも言われているバッハの無伴奏チェロ組曲全曲の演奏会を京都府民ホールアルテイで、させていただきます。皆様にも是非ご来場いただければ、こんなに嬉しいことはありません。

まずは、6月28日に皆様にお目にかかれることを、心より楽しみにしています!

古川展生

Profile

1973年5月9日京都生まれ。桐朋学園大学卒業。チェロを故・井上頼豊、秋津智承、林峰男の各氏に師事。1996年安田クオリティオプライフ文化財団の奨学金を得て、ハンガリー国立リスト音楽院に留学、チャバ・オンツァイ教授に師事。1997年第27回マルクノイキルヘン国際コンクール(ドイツ)チェロ部門にてディプロマ受賞。1998年帰国後、東京都交響楽団首席チェロ奏者に就任、現在に至る。2003年第2回齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞。

ソリストとしても、東京都交響楽団をはじめ国内多数のオーケストラ、著名指揮者と共演を重ねるほか、1995年に結成したストリング・クワルテットARCOでは、1999年大阪国際室内楽コンクール弦楽四重奏部門第3位に入賞(邦人として最高位)。

また2007年には、藤原道山(尺八)、妹尾武(ピアノ)とユニット「KOBUDO-古武道-」を結成。あらたな音楽の創造を目指した演奏・制作活動を展開している。古武道としては、2013年5枚目となるアルバム<音旅>をリリースしている。

同窓生のつどいのご案内

三年に一度の同窓生のつどいを、下記の要項で行います。今回は、附属中学校第四一期卒業生で、チェリストの古川展生さんに、チェロの演奏をお願いし、「同窓会スペシャルチェロコンサート」を開いて頂きます。

また、恩師の先生方や旧友との親交を温め、思い出に残る一日として頂ければ幸甚に存じます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

◆日時 平成26年6月28日(土)

受付 午後3時より

入場は午後3時45分より

開始 午後4時より

(総会開催告知を17頁に記載)

◆場所 京都ホテルオークラ 4階 暁雲の間

京都市中京区河原町御池東北角

電話 (075) 211 - 5111

◆式次第 懇親会

・スペシャルチェロコンサート

出演：チェロ 古川 展生

ピアノ 塩入 俊哉

・コーラス(アンサンブル東櫻)

・福引き など

◆会費 一般 10,000円

敬老会費 7,000円

(昭和23年3月以前に小学校を卒業された方)

大学生以下7,000円



※ご出席の方は同封のはがき(出席回答票)または、東櫻同窓会(仮称)ホームページ(<http://www.touou-dousoukai.jp/>)より必ずお知らせください。

準備の都合上、5月25日(日)までにご連絡頂きますようお願い申し上げます。